

恩師追い、次世代育成へ



高校時代の斎川さん
(斎川さん提供)



足利工業高校レスリング部の練習を見守る斎川さん(左)と長島さん(足利工業高校で)

高校総体 表彰台へ

2人の後輩の足利工業高校レスリング部員たちは、全国大会での上位入賞を目指して練習を重ねる。斎川さんが赴す。

任すると決まった時うれしい反面、練習が厳しくなるのではないかといふ不安もあったという。しかし、実際には、斎川さんの方針で、メニューの大半は自分たちで考る。小林伊織主将(3年)は「真っ直ぐは最初に戸惑つたけど、迷ったことは一度もない」と斎川先生がヒントをくれると話す。

自分たちの弱点を見つけ、強化することなどで実力も伸び、「1、2年生が出席する昨年の県新人大会の結果では、同校としては約20年ぶりの優勝を果たした。小林主将は部員の士気は高い。今年は高校総体で表彰台にのぼりたい」と意気込んでいる。

アスリート
Athlete

ロンドン五輪(2012年)に男子レスリングで本代表として出場した斎川哲克さん(28)が4月、母校の足利工業高に保健体育の教師として赴任した。今年退職した恩師の長島偉之(さへゆき)に代わって、レスリング部の顧問も務め、指導者としての道も歩む。

ロンドン五輪では男子グレコローマンスタイル96kg級に出場。初戦で敗退した。今年4月に県の教員に採用され、同校に赴任した。教壇に立ちながら今後も現役選手を統べることを次の世代に伝えることを責務だと思っている。後輩を育てることに注力したい

これからは教えてもらつたところを次の世代に伝えること一度出られるのではないか。1~2年して余裕が出る斎川さん。教員や指導者としての意気込みを、教員を務めながらロサンゼルス五輪(1984年)に

出場した長島さんは、斎川さんへのアドバイスなどについて聞いた。(聞き手・増田政幸)

レスリング

足利工業元教諭 長島 偉之選手 60 28

斎川さんはいつ、教員を目指することにしたのか。

斎川「ロンドン五輪の前くらい。高校生や子供たちにレスリングを教える機会があり、生徒たちが勝つて喜ぶ姿を見て、指導する面白さを感じていた。自分の経験を次の世代に伝えたいという思いもあった」

「高校教師を選んだのは、自分が高校でレスリングを始めたことで、自分のように高校からスタートしても力を伸ばせることを知つてもらいたかったからだ」教員を目指す際には長島さんに相談したのか。斎川「採用試験を受ける時に『今年受けます』と云えた」

長島「その話を聞いた時はとてもうれしかった。県内ではレスリングの指導者が少なく、若い指導者が求められていた。ただ、斎川は五輪の初戦で負けたものの翌年の世界選手権では5位で、世界のトップクラスの選手と互角に戦う実力があった。五輪でメダルを取つてからでもいいんじやないかと、義理で激励することを勧めたが、本人の意志は固かつた。五輪で完全燃焼したんだなと感じた」

長島さんは教員をしながら31歳でロス五輪に

出場している。五輪を目指すのか。

斎川「競技は続けるが、これが責務だと思っている。後輩を育てることに注力した

か」

五輪は意識していない。五輪の戦いに悔いはないくらい

五輪は意識していない。五輪の戦いに悔いはないくらい

五輪は意識していない。五輪の戦いに悔いはないくらい

五輪は意識していない。五輪の戦いに悔いはないくらい

「五輪また狙える」助言

これからは教えてもらつたところを次の世代に伝えることを責務だと思っている。後輩を育てるために注力した

かもね

長島「斎川は五輪にもう一度出られるのではないか。1~2年して余裕が出る斎川さん。教員をして、自ら考えて練習してみたが、それが力添えになるよ

か」

斎川「体力はランニングなどで力添えできるが、対戦相手がおらず、実戦の機会が少ない。以前は相手を求めて海外にも行ったが、今度は近くに同じ階級の相手もない」

か

長島「教員をやりながら現役を続けるには体力の維持が重要だ。1人のトレーニングと、相手と組むのとでは、使う力が違う。自分が現役の時も実戦でできることが大変だった。休日に大学で大学生を相手に練習方法を考えなければならない」

高校時代、斎川さんはどんな選手だったか。

か

長島「斎川は、日本一にならなかったら指導者失格だな」と周囲に軽く言つたら、「そうですね」と真剣に返されたほどだ。

多くの人から「彼はすごい」「強くなる」と言われ、非凡な才能を持ち主であることを改めて感じた。だから、自分全てを教えた。強い人に教わることが一番の指導」と考えていたので組む

ことは。

斎川「いさぎなり強くないのは無理だが、精神面でアップアッピングしてもらいたい。選手が自分で考えることが重要で、聞かれたこと

を教えるという指導方法が理想だ。5月に今年度初の大会があるが、昨年の新人大会は優勝してるので期待できると思う」

か

長島「レスリング部を強く守り、何かあれば協力したい。2022年には県内で国体が行われる。県内

レスリング協会の事務局を務めているので、県全体の底上げをして競技をもり立てていきたい

さいかわ・のりかつ 佐野市出身。足利工業高校でレスリングを始める。日本体育大学を卒業後、08年から両毛ヤクルト販賣(足利市)に所属し、12年のロンドン五輪では男子グレコローマンスタイル96kg級に出場。初戦で敗退した。今年4月に県の教員に採用され、同校に赴任した。

ながしま・ひでゆき 足利市出身。足利工業高校で柔道部に入り、日本体育大学に進学後にレスリングを始める。卒業後、足利工業高校で教員として働きながら、1984年のロサンゼルス五輪で男子フリースタイル82kg級に出場し、銀メダルを獲得した。今年3月に同校を定年退職し、非常勤講師を務める。